

団体と企業がつながる、新しい動き

NPO法人アスデッサン&ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループ 「未来トーク」と社会貢献活動

若手の社会人が、自分の人生や現在の仕事の内容、やりがい等について話す出張授業は、高校からの希望も多いのですが、平日に社会人が高校に出向くことが難しい状況がありました。特に、体育館等で学年全体に話す形ではなく、クラス毎に講師が入って話し、小グループになって話し合うというプログラムを行う時には、クラス数の社会人講師が必要となります。



団体メンバーが、職場であるジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループの社会貢献委員会に相談したところ、社の社会貢献活動の1プログラムとして、社内にて講演希望者を募り、実施日程と調整して社会人講師を派遣していただけることになりました。都立高校での授業には、本社社会貢献プログラムに応募した社員の一人が、北海道から来てくれました。

東京での大学生活、そして北海道でのエピソード等を、前向きに生き生きと話す講師に生徒は感動し、「自分の人生、働き方は、自分で決める、ということの大事さを、改めて考えました。」という感想がありました。

NPO法人アスデッサン 高校生が自分の将来について考えるきっかけをつくり、自分らしい「アス(=未来)」を「デッサン(=何度でも描き直す)」することを目指して活動している団体です。学校での出張授業を行うとともに、「ロールモ(=ロールモデル)」という大人の「生き方」「中高時代の悩み」を掲載したインタビューサイトを運営しています。

一般社団法人キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会と株式会社富士通総研 「コンサルタントのお仕事」体験プログラム」出張授業型と企業訪問型



総研(総合研究所)や、コンサルタントについては、高校生はほとんど接することがない分野ですが、現役のコンサルタントから仕事について説明を受け、「ロジックツリー」という思考法を用いて、コンサルタントの仕事を経験し、論理的な分析力を身に付けることができるように考えられたプログラムです。

高校に社員が来て実施するとともに、竹芝にある富士通総研本社での体験もできます。

都立高校の生徒が訪問した時は、会議室を会場として五つのグループに分かれて話し合いました。例として、「寝坊した」ことは何が理由なのかを挙げ、一つ一つの理由について、防ぐにはどのような方法があるのか、検証していきます。次に、見習いコンサルタントとして、レストランを営業するクライアントの課題に対して、意見をまとめ、発表しました。

コンサルタントの方たちから、仕事の大変さ、しかしクライアントに喜ばれた時の達成感についても聞くことができ、「コンサルタントの仕事に魅力を感じた。」「ロジックツリーは、生徒会やクラブ活動での課題解決に役立ちそう。」、という感想もありました。

コンサルタントの方たちから、仕事の大変さ、しかしクライアントに喜ばれた時の達成感についても聞くことができ、「コンサルタントの仕事に魅力を感じた。」「ロジックツリーは、生徒会やクラブ活動での課題解決に役立ちそう。」、という感想もありました。

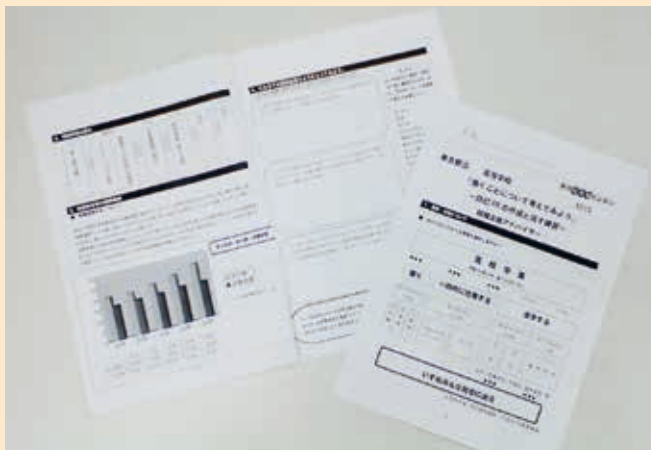
一般社団法人キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会は、キャリア教育に関心のある人、企業、団体等、学校、行政機関等とのネットワークをつくり、多様な学びの機会を創出することを目的として設立されました。産業界と教育界の架け橋となるキャリア教育コーディネーターを養成するとともに、キャリア教育コーディネーターの活動の場を広げています。

産業分野との連携

「都立高校生の社会的・職業的自立支援教育プログラム事業」には、企業やNPO等の団体だけではなく、東京労働局や東京都産業労働局と連携した教育プログラムもあります。

東京都産業労働局では、高校2年生を対象とした「高校生向け就業意識啓発講座」を実施しています。自分の人生の中での仕事の位置付けや目的について考えるとともに、「働くことがどのように社会に貢献するか」という内容も生徒に伝えることで、興味・関心をもって仕事を考える姿勢をつくります。高校の要望に応じて、労働法や賃金制度に関する知識等についても、講座の内容に入れることができます。就職を目前にした時期だけではなく、高校在学中から働くことについて考え、就職を支援する機関等についても知る機会をつくることで、主体的な進路選択につなげていきます。

東京労働局のプログラムでは、ハローワークと連携した職業講話や、職業適性検査等を行なっています。平成27年2月に、東京都と東京労働局が締結した「東京都雇用対策協定」に基づく事業計画では、「在学中のキャリア教育を推進する」という項で、「都立高校のキャリア教育の一環として、ハローワークが職業講話や一般職業適性検査等を実施」することを示しています。



未来の自分の「職業」を考える

都立日野台高校で、株式会社UDS代表取締役社長の中川敬文さんによる連続授業「FUTURE THINKING 2035」全4回が行われました。

中川さんは、職業体験施設「キッザニア東京」や、住民自らが計画段階から関わる集合住宅などの実績で知られる建築プロデューサー。「自分たち、そして社会が必要だと感じているものをかたちにする」ことを目指しています。

授業では、最初に日本や世界の2035年を予想したデータを見たあと、世界、日本、まち、自分がどうなっているか、どうなっていたいかを考えます。ポイントは、現在の仕事から選ぶのではなく、「今は無いけれど、新しく登場する仕事」を考えること。今日までの20年間で、インターネットが登場し、通販やコミュニケーションツール等に関わる新しい職業が数多く生まれてきました。これからの20年は、AI（人工知能）がどこまで進化するか、自動車に代わる移動手段はどうなるのか、様々な予想データを見ながら、「正解がない課題にチームで取り組む」授業でした。

中川さんは、都立北園高校で充実した高校時代を過ごし、部活で仲間と頑張った経験から、「チームで協力する体験を多くすること、そして、今、やりたいことに全力を傾けてほしい。」と伝えてくれました。

